令和５年度　いのちの授業　事例集（幼稚園こども園）【健康】

掲載数 16

	地区	学年	教科等	テーマ	内　容	参考事項（講師・教材等）
1	相模原市	幼複合	健康	食育	園の給食は大人になってからも元気にいられるように献立が作られていることを幼児向けに話をした。様々な食材を食べることによって人の体の栄養になり、元気な心と体をつくること、食べることは生きる上ではとても大切なことを伝える。実際に食べ物が体に入るとどうなるかということを等身大パネル（人間の体の中の臓器が見えるもの）を使って説明すると、子ども達が内臓の名称や食べ物が体に入るとどうなるのか等知っている園児もいて驚かされた。また、魚の骨を見せると子ども達は覗き込み、とても興味を持っていた。よく噛むことで喉に詰まることを防止したり、野菜や肉、魚などからもおいしい味を感じたりできることを伝える。給食を通して、食べることは生きる力になることを繰り返し伝え、説明を終えた。	講師には給食調理員 人の内臓が描いてある等身大パネル 魚・鶏の模型
2	中	年長	健康	命をいただく	子牛が食べられる前に、遠く離れた母牛に会いに行くという内容の絵本を読む。悲しいお話に「かわいそう」とか「牛肉を食べなければいい」などと色々な意見が出た。しかし、生きていく為には牛肉を食べなくても、鳥や豚や魚も食べる。野菜だって話さなくても生きていることを伝えると、「大切に食べる」「残さない」などの意見も出た。大切な命を頂くからこそ、「いただきます」と感謝の気持ちを持って食べることや、命をもらって生きていくのだからこそ、自分の事も大切にしようと伝えた。	参考文献 『もうじきたべられるぼく』 中央公論新社
3	中	年少	健康	牛さん、おいしい牛乳をありがとう。	園で毎日飲んでいる牛乳。全部飲める子もいるが、少しずつ飲めるように頑張っている子もいる。教師は「牛乳を飲んでくれて、牛さんも喜んでいるよ。牛さんのおっぱいをみんながもらっているんだよ」と伝えた。すると、一人の子が「僕、乳しぼりをしたことがあるよ」と教えてくれ、教師は園の近くにも牛を飼っているおじさんがいることを知らせる。「行きたい！」と声が上がり、たまたま、そのおじさんが園に花を届けてくださり、見学についてお願いすると「いつでも見においで。」と言ってくださり、見学が実現できた。牛舎では搾乳の様子や、牛がおしっこをする姿、かわいい子牛の姿も見ることができた。「みんな牛乳を飲んでくれよ」とおじさんが話された。園に戻ってきて、「牛さん喜ぶよね」と言って、子どもたちは残さないように飲むようになった。「牛さんありがとう」という言葉も聞かれ、牛のおっぱいをいただいているという意識をもって牛乳を飲むようになった。	

4	中	年少	健康	煙体験	園では、地震や火事から自分の身を守るためにはどうすれば良いのかを月１回避難訓練をしながら学んでいる。６月に保育室に人体には無害の煙をたいて、煙体験をした。体験をする前に消防士から煙のなかでの避難の姿勢、煙を吸わないためにどうするのかなどの話を聞き、消防士からの話を思い出しながら子ども達は真剣に参加していた。その後、クラスで紙芝居を見ながら、「火事って怖いね」「火事になってほしくない」と話したり、また、５月の幼年消防クラブ任命式で火事の時どうするのかの話も聞いていたので、「火事を見たら大きな声で教えるんだよね」などと話す子もいた。火事にもし遭った時には、煙を吸わないようハンカチや袖で鼻と口を覆う事や、姿勢を低くすることを再度伝えた。子ども達は静かに話を聞き、「ハンカチがないとだめだよね」「毎日持ってくるんだよね」とハンカチが手洗い以外にも自分の命を守る必要なものであることを実感していた。自分の身を自分で守る方法や命は１つしかないことを年齢に合わせて話をしたことで、４歳児なりに避難訓練時に意識して行動するようになってきた。	年少向防災かみしばいできるかな？かじのひなんくんれん
5	中	年長	健康	「だいじ・だいじ・どーこだ？」	男児Aは、女児が近くを通る際に衝動的に体を触る姿が見られていた。そのため担任は「体は大切だから触らない」ことを日頃から伝えていた。触られた女児Bは嫌だと本児に伝えるがやめてもらえず、嫌な思いをしたことを保護者に伝え、保護者から担任に話があった。これを機に、クラス全体で自分や友達の体について考えるようにした。「だいじ・だいじ・どーこだ？」の絵本を読み、感じたことや考えたことを３、４人のグループに分かれて話し合う。絵本の中には「プライベートパーツ(胸、お尻等)は特に大事で、触っていいのは自分だけ。」「もし触られたらどうするか。」という内容が書かれていた。絵本の読み聞かせ後、グループごとに話し合う中で、「体は全部大切。」「もし触られたら嫌だって伝えて逃げる。」「触られている人がいたら、助けてあげる。」「すぐ大人の人に言う。」等と学んだことを話す姿が見られた。今回の話し合いを通して、男児Aも含めクラス全体で、自分や友達の体はどこも大切で守らなければいけないことや、自分の気持ちをはっきりと伝えることの大切さを学ぶ機会になった。その後、話し合った内容をクラスに掲示したことで、男児Ａも意識して掲示を見る姿が見られ、我慢するようになる。またクラス全体も、体を触られている場面を見た時に、嫌なことだと伝えたり、担任にすぐに知らせたりする姿に繋がっていった。	絵本「だいじ・だいじ・どーこだ？」
6	中	年長	健康	防災教室・煙体験「様々な災害から自分の命を守るために」	日頃、避難訓練を行っているが実際に起こる災害がどのようなものかイメージできる幼児もいれば難しい幼児もいる。防災教室で実際に起きた災害についてのビデオを見る中で「こんなに揺れるんだ」「倒れたら怖い」など災害が危険で怖いものだと気づく様子が見られた。また、翌日に煙体験を実施すると、防災教室で学んだことを思い出し、「本当に地震が起きたら」「火事になったら」と様々な予想をしながら真剣に取り組む姿が見られていた。防災教室や煙体験を通して実際に起こり得る身の回りの災害について学び、自分自身の命を守るためにはどうしたら良いのかを考え、その後の避難訓練でも意識して取り組む姿につながった。	講師は、秦野市防災課職員。 パワーポイント・映像使用。

7	中	年長	健康	自分だけのだいじなところ	「生命の安全教育動画」を就学前の５歳児で全員で視聴し、学ぶ機会を作った。水着で隠れている部分は自分の体の中で大切な所であり、そこを見せたり触ったり触られたりしてはいけないということを学んだ後、５、６人のグループに分かれ感想や体験したことを話しあった。その中で、トイレを覗かれたり、後ろから抱きつかれて嫌な気持ちになったことがあると話していた。その時は、どうしたら良いか尋ねると、トイレを覗いている所を見かけたら、「だめだよ」と教える、はっきり「やめて」というなど、様々な意見が出た。子どもなりに内容をしっかりと受け止めている様子だった。全員で話し合った内容を共有する事で、幼児は、自分の体は自分で守る大切さや見られたり触られそうになった時、困った時、嫌な気持ちになった時には大人に伝える必要性を学んだ。	文部科学省：生命（いのち）の安全教育動画教材（幼児期）「じぶんだけのだいじなところ」
8	中	幼複合	健康	避難訓練（火災）	保育室にて保育時間中に火災が起こる。今回は、火災を知らせる放送の前に、非常ベルの音がなることを事前に説明をした。どんな音か聞き、自分で行動できるようにするためであり、子どもたちは落ち着いて園庭に避難した。年少組はまだ防災クッションがスムーズに被れない子がいたが、年長児や年中児の中には手やハンカチで口を抑える等の姿が見られ、自分の身を守る行動を取る様子が見られた。	絵カード
9	中	幼複合	健康	避難訓練（地震）	保育時間中に地震発生。「地震です。」の放送が聞こえると室内の子どもは机の下にもぐり、園庭にいた子どもは教師のそばに集まり安全を確保した。シェイクアウトの姿勢を『ダンゴムシのポーズ』と知らせて揺れが収まるまでの体勢を取った。揺れのおさまりを告げ、「安全な場所に避難しましょう。」の放送が入ると室内にいた子は防災クッションを被って園庭に避難し、全員集合する。点呼後、基本的な部分の説明、シェイクアウトについて再確認をして、自分の身を守ることをイメージできるようにした。今回は職員にも予告なし、子どもたちにも事前の知らせをしないで行ったが、皆、落ち行いて行動をする姿が見られた。	絵カード
10	県西	幼複合	健康	いのちを守るために大切なこと	冬休み中に能登半島地震が発生したことは子どもたちも知っていた。第３学期の始業式で、園長から、被災地ではまだ救助を待っている人がたくさんいることやその中にはみんなと同じ小さい子もいるという話があると、真剣な表情で聞いていた。「今、地震が起きたらどうする？」と問いかけると、「アリーナに逃げる！」「防災クッションを被る！」「机の下に潜る！」など、避難訓練の経験から自分なりの答えを探して発言していた。子どもの考えを受け止めると共に、先生の話をよく聞くこと、命を守るために自分で考えたり判断したりすることが大切であると皆で確認した。	年少・年長

11	県西	年長	健康	チューリップの水やり	チューリップの球根を植え、毎日、芽が出てくるのを楽しみにしながら、登園をすると水やりをしていた。「チューリップの芽が出てきた。」と、芽を見つけると、嬉しそうに友達に報告し、「早く咲かないかな。」「何色だろうね？」などと、また、楽しみが増え、水やりを行っていた。月曜日、いつものように水やりを行なおうとすると、「あっ、芽が食べられている。」と、悲しそうな顔。周りを見ると、カラスの足跡。「きっと、カラスさん、食べるものがなかったのかな。チューリップの芽が美味しそうに見えたんだね。」と言うと、「でも、チューリップの花が咲かない！」と返ってきたので、どうするか話し合い、プランタにネットをし、チューリップの芽を守ることにした。	
12	県西	年長	健康	地震って本当に怖いの？	振り返りの会で地震の話題が出た。「地震は揺れるけど、ちょっとしか揺れないし怖くない。全然平気だよね。」という発言があった。保育教諭が「みんなが生まれる前に大きな地震がきて、家が潰れてしまったり、亡くなった人も沢山いたんだよ」ということを伝えると、多くの子どもは、そうなんだというくらいの軽い受け止め方をしている様子だった。一人の子どもの「先生はその時どうしてたの？」という問いに対し「先生は園にいて、大きく揺れたからみんなを連れて外に避難したよ。お母さんたちも電車が動かないからお迎えに来れなくて夜まで園でお迎えを待っていたんだよ。」という話をすると、「本当に逃げたんだ」「怖かった？」「地震で電車が動かなくなるの？」など沢山の質問が出て、真剣に聞き考える姿がみられた。今までも毎月避難訓練は行っていたが、訓練とは違う身近な保育教諭の体験談に、地震がどんなものなのか考える機会になったようである。命を守る為に避難訓練があるということを伝えると、そうなんだねと大切さを感じたようであった。	
13	県西	幼複合	健康	命の誕生 生命尊重・感謝の気持ち	毎月誕生会を実施している。誕生月の子どもたちはステージに上がり、全園児から祝福を受ける。司会進行は年長児が行いながら、誕生日の意義を実感することになる。誕生月の園児には、各学年が作成したプレゼントが贈られる。自分の誕生月にももらえるプレゼントなので、子どもたちは一層丁寧に、そして、心を込めて毎月作成している姿がある。誕生会の冒頭で園長の話がある。園長はクイズ形式で子どもたちに毎月同じ質問をしている。内容は２つあり、１つ目は「誕生日ってどういう日？２つあったよね」と質問する。答える内容が身についているので、子どもたちは一斉に手を挙げる。園児「自分の大事な命が生まれた日です」。園長「そうですね、皆さんの一つしかない大事な命がこの世の中に誕生した日です」。園長「では、もう一つは？」またもや一斉に園児の挙手。園児「お家の人にありがとうと言う日」。園長「そうですね。皆さんの大切な命を大事に育ててくれているお家の人に、ありがとうと言う日ですね」。園長「世界の中には無事に誕生日を迎えられない子どもたちもいます。今日のようにお家の人やお友達に囲まれて誕生日を祝ってもらえるのは嬉しいことですね」と話を締めくくる。「自分の命は自分で守る」は避難訓練の際の合言葉だが、誕生会はその命の起源に触れる大切な行事としている。	・全学年対象で実施 ・司会進行などは子ども達に任せ、教師は見守る姿勢をとっている。 ・クラスに戻ってからも、担任からお祝いのメッセージや誕生日の意義について定着を図るため、再度説明を行っている。 ・司会進行中に気づいたことなどは、帰りの会で発表する場を設け、みんなが共通して把握できるようにしている。

14	県西	年長	健康	食育から学ぶもの	日頃から子どもたちは食育を楽しみにしている。栄養士が目の前で、大きな鮭１匹を見せると子どもたちは、「すごい大きいね」と驚いた。さらに、いつも食べている鮭だということを知るとより驚いた表情をしていた。鮭の説明が終わると、栄養士がさばいていく。その時、子どもたちは思ったことを話していた。「血が出てきた」「かわいそうだね」という友達に対し、「でも、生きていくために必要なことなんだよ」と話している姿があった。また、その場の匂いにも気づき、最初は魚の匂い、次に「血の匂いだ」と普段の生活の中では感じることができないことを実際に感じることができた。私たち人間が生きていくために必要なことを知る機会になる子どももいたので、実際に体験しながら学んでいける貴重な１日になった。	栄養士２名
15	県西	年長	健康	阪神淡路大震災について知る	能登半島地震が発生し、テレビのニュース映像などを見て「地震」を身近なものに感じた子どもたち。日課となっている「今日は何の日(記念日や出来事を知る活動)」で、１月17日が阪神淡路大震災が起きた日だということを知った。阪神淡路大震災についてインターネットで調べ、被害の様子や避難についての動画を見た。子どもたちは、真剣な眼差しで動画を見つめ、自分に置き換えて考える時間を設けると涙を浮かべる姿もあった。命の大切さを改めて感じられた。	
16	県西	年中	健康	自分の体は自分のもの	「おしり」「おっぱい」などの言葉を発して喜ぶ幼児の姿があったり、異性との体の違いについて疑問を抱く幼児がいたため、プール活動を前に、クラスで教材を用いて話をした。自分の体は自分のもの、人の体は人のもの。とくに水着で隠れるプライベートゾーンといわれる場所は人に触らせない、人のものも触らないことを知ることができた。また、自分も含めみんな大切な存在であるからこそ日頃から自分や相手のことを考えて関わることの重要性を幼児なりに理解していた。	絵本 いいタッチわるいタッチ(復刊ドットコム) だいじだいじどーこだ？(大泉書店)